

令和元年度上半期基幹型及び在宅介護・地域包括支援センター業務報告

5-2 地域ケア会議推進事業

(1) 個別地域ケア会議の開催

在宅介護・地域包括支援センター	開催日時	参加者		テーマ	事例	事例の課題	検討結果	地域ケア会議後の状況	地域の課題	
吉祥寺本町	令和元年 6月20日 (木) 16:30 ~17:30	本人		軽度の認知症のため生活が不活発になっているHさんへの支援	長年地域活動が続いていたHさんが軽度の認知症と診断を受けた。もの忘れが増えたことから、長年の地域活動や教室をやめてしまい閉じこもりがちになってしまった。日常生活では、まだできることも多い。孫家族と同居だが、孫も子育て中である。	① もの忘れの不安や心配から、感情不安定でネガティブな発言が増えている。ちょっとした声かけがあれば、まだ地域での活動も続けられるのではないかと。 ② 認知症に関する理解を同居の孫家族だけでなく、別居の長男にも理解をしてもらう。	① 介護保険サービス(通所)の利用につなげるが、同時に地域での活動にも参加できるようにする。近隣の友人に地域での集まりがあるときには、本人に声をかけて一緒に参加してもらおう。 ② 家族に対して認知症への理解を進めるだけでなく、地域にも理解をしてもらえるよう、認知症サポーター養成講座を開催する。	介護保険サービス(通所)を利用しながら、地域での集まりやお茶をして過ごすことができていたが、転倒骨折のため入院。退院後の生活について、このまま閉じこもらず、活動の場をどのようにするかを今後の検討課題である。	① 認知症があっても地域の一員として生活が続けられるような介護保険サービスと地域での見守り体制の構築 ② 介護者が子育て中であり、就労もあることからダブルケアへの支援や介護離職ゼロを視野に入れ、地域のできるサポート体制の検討	
		家族・親族	○							2
		民生児童委員	○							1
		ケアマネジャー	○							1
		介護事業者	○							1
		医療関係者	○							1
		行政								
		その他	○							2
		在宅介護・地域包括	○							2
		基幹型地域包括								
合計		10								

在宅介護・地域包括支援センター	開催日時	参加者		テーマ	事例	事例の課題	検討結果	地域ケア会議後の状況	地域の課題
高齢者総合センター	令和元年 6月28日 (金) 13:30 ～15:00	本人	○	1	今の住まいで、安心して住み続けられる。  もの忘れがあり、通帳の再発行を繰り返すといった認知機能の低下が心配されている。独居のため、不安と寂しさから昼夜を問わず近隣住民宅を訪問してしまうことから、地域から孤立しかけている。	① 昼夜を問わず近隣住民宅を訪問してしまうことで、地域から孤立しかけている。 ② 認知機能の低下があることから金銭管理ができなくなっている。消費者被害にあう危険性がある。	① 社交的で誰とでも仲良くできるのが本人の強みであることを活かし、介護保険の通所サービスだけでなく、いきいきサロンや地域の集まり等、本人が参加できる場を作り、孤立しないようにする。認知症見守り支援ヘルパーも併用し、自ら集いの場等に出て行くだけでなく、来てもらうことで安心感が得られるようにする。 ② 認知機能の低下があることから金銭管理ができなくなっている。権利擁護事業の利用について検討	介護保険サービスと地域の見守りや声かけ支援を受けながら在宅での生活を継続しているが、金銭管理ができなくなり、生活費が不足してしまうことが増えてきたため、成年後見制度の申立てに向けて準備をしている。	団地住民同士の顔の見える関係づくりができたことにより、地域での生活が継続できている。地域とケアマネジャーが、スムーズに連絡・連携できる地域づくり
		家族・親族							
		民生児童委員	○	1					
		ケアマネジャー	○	3					
		介護事業者	○	1					
		医療関係者							
		行政							
		その他	○	2					
		在宅介護・地域包括	○	4					
		基幹型地域包括							
合計		12							

在宅介護・地域包括支援センター	開催日時	参加者		テーマ	事例	事例の課題	検討結果	地域ケア会議後の状況	地域の課題
高齢者総合センター	令和元年 7月26日 (金) 13:30 ～15:00	本人			今の住まいで、安心して住み続けられる。  夫が亡くなり、独居となる。ボランティア活動や趣味の水泳、友人との交流等活発に生活していたが、認知機能の低下から閉じこもりがちになってしまった。	① 介護保険の通所サービスを利用しているが、介護保険サービスの利用日以外は閉じこもりがちになっている。 ② 独居のため、緊急時の対応をどのようにしたらよいか。	① 自治会で登録制の見守り活動を行っていることが分かり、登録することとなった。介護保険サービスの利用日以外にも予定を明らかにすることで、近隣住民が見守りや声かけができるようになった。 ② 自治会独自の見守り体制のほか、家族の連絡先の確認等を行い、緊急時の体制について確認した。	地域での見守り支援を受けつつ、介護保険サービスを利用しながら在宅での生活を継続することができている。	認知症のある方をどのように地域で見守り、声かけをしていけるのか。地域で認知症のある方への理解を深める必要がある。
		家族・親族	○	1					
		民生児童委員	○	1					
		ケアマネジャー	○	2					
		介護事業者	○	1					
		医療関係者							
		行政							
		その他	○	1					
		在宅介護・地域包括	○	4					
		基幹型地域包括							
合計		10							

在宅介護・地域包括支援センター	開催日時	参加者		テーマ	事例	事例の課題	検討結果	地域ケア会議後の状況	地域の課題
高齢者総合センター	令和元年 9月13日 (金) 13:30 ~14:30	本人			今の住まいで、安心して住み続けられる。  夫が亡くなり、独居となる。認知症のため、遠方の家族が毎月支援のために上京する。介護保険サービスも利用しているが、日常生活全般に見守りや声かけが必要。本人は「長年住んだこの家で生活したい。知り合いもないようなところ(家族の住む場所)には行きたくない。」と話す。	① もともと小食でもあり、特に夏場は脱水で救急搬送されることがある。体調管理をどのようにしていくか。 ② 独居のため、緊急時の対応をどのようにしたらよいか。	① 主治医から病状説明があり、それを踏まえて本人の行動パターンから必要な支援を検討。介護保険の通所サービスを活用 ② 自治会や近隣の協力を得て、新聞が溜まっていないか、回覧板を回しているかといったことで見守り、異変が感じられたときは家族へ連絡する体制とした。	本人の行動範囲を把握し、地域で見守り・声かけをしているが、信号のないところで横断する等事故になるおそれもあることから、ひとりでの外出が難しくなっている。介護保険サービスを増やす等の調整を行っている。	認知症のある方をどのように地域で見守り、声かけをしていけるのか。地域で認知症のある方への理解を深める必要がある。
		家族・親族	○	1					
		民生児童委員	○	1					
		ケアマネジャー	○	2					
		介護事業者	○	1					
		医療関係者	○	1					
		行政							
		その他	○	3					
		在宅介護・地域包括	○	3					
		基幹型地域包括							
合計		12							

在宅介護・地域包括支援センター	開催日時	参加者		テーマ	事例	事例の課題	検討結果	地域ケア会議後の状況	地域の課題	
桜堤ケアハウス	令和元年 9月4日 (水) 13:30 ～14:30	本人			もの盗られ妄想のある独居の方への支援を考える。	もの盗られ妄想があり、そのために近隣や家族との関係が悪化。介護保険サービスを利用しているが、金銭管理も難しくなり、権利擁護が必要。医療機関への受診も拒否される。今の住まいで生活を継続するためには、どのような体制があればよいか。	① もの盗られ妄想のある本人と、どのように信頼関係を構築していくか。 ② 認知機能の低下のほか身体機能の低下もある。医療機関にどのようにつかないでいけるか。	① 介護保険サービス事業者での関わり方の工夫や取組について地域住民に伝えることで、本人の症状への対応方法について理解を求めた。 ② 健康診断を受けることを勧め、それをきっかけに定期的な受診、成年後見制度申立てにつなげる。緊急時の連絡については、在宅介護・地域包括支援センターから姪に確認し、了解を得る。	医療機関へ受診できるようアプローチしているが、受診できていない。認知機能の低下により、住宅の更新手続に支援が必要なことをきっかけに甥に連絡を取り、併せて成年後見制度申立てについて調整している。	独居でキーパーソン不在の方の支援体制の検討
		家族・親族								
		民生児童委員	○	1						
		ケアマネジャー	○	1						
		介護事業者	○	4						
		医療関係者	○	1						
		行政	○	2						
		その他	○	1						
		在宅介護・地域包括	○	2						
		基幹型地域包括								
合計		12								

在宅介護・地域包括支援センター	開催日時	参加者			テーマ	事例	事例の課題	検討結果	地域ケア会議後の状況	地域の課題
武蔵野赤十字	令和元年 6月7日 (金) 10:30 ～11:30	本人	○	1	認知症があっても本人らしい生活を送るために。	独居で認知症がある。隣に住む長男夫婦が支援、介護サービスを利用しながら生活をしている。本人はこのまま家で暮らしたいと話す。認知機能の低下による日常生活への支障が増えている。	① 本人は、自分ではできているつもりでもできていないことも多く、認知症のある本人の自尊心を傷つけない支援の検討 ② 近隣とのこれまでの関わりやスーパーへの買物は本人の楽しみとなっているが、ひとりではできなくなっている。本人の楽しみに対する支援の検討 ③ 緊急時の体制の確認	①② 通所サービスや見守り支援ヘルパーの対応で工夫していることや、家族がどのように関わっているのかを共有することで、本人のできていること・できていないこと、手助けするとできることを把握 ③ 当日キャンセル時の対応も含め、再度確認。状態の急変時は、家族へ連絡することを確認	認知症状の進行により外出することが難しくなり、当日キャンセルを増えたため、介護保険サービスの見直しを検討している。	認知症のある本人の意思決定支援をどのようにしていくか。本人・家族だけでなく、本人を支える支援者全員で一緒に考えていく必要がある。
		家族・親族	○	2						
		民生児童委員								
		ケアマネジャー	○	1						
		介護事業者	○	2						
		医療関係者								
		行政								
		その他								
		在宅介護・地域包括	○	1						
		基幹型地域包括								
合計		7								

(2) エリア別地域ケア会議の開催

地区 (在宅介護・地域包括支援センター)	内容	開催日 ・会場	参加者数	うち ケアマネジャー数	5つの機能の到達度 (○で)				
					個別課題解決	ネットワーク構築	地域課題発見	地域づくり・資源開発	政策形成
東部第2 吉祥寺本町)	<p><b>吉祥寺本町地域ケア会議</b> 男性が地域で活躍する場づくり 「男の料理教室の報告とこれからの活動について」</p> <p>昨年度の地域ケア会議で「男性がもっと地域で活躍する場が必要なのではないか」という意見が出されて、具体的な活動について話し合いを重ねてきた。その成果として、平成31年3月14日に「男の料理教室」を開催した。その報告と今後の取組について話し合った。</p>	平成31年 4月25日(木)  二葉学園学生会館	17	5		○		○	
西部第1 桜堤ケアハウス)	<p><b>境地区地域ケア会議</b> 「境地区の強みを生かした取組」について意見交換</p> <p>昨年度の地域ケア会議で、境地区の強みはキーワードで表すと「多世代とのつながり」及び「古いものと新しいものとの融合」ということだった。この強みをどのように生かしていくことができるか、具体的な取組について考えた。</p>	令和元年 6月28日(金)  スイングホール レインボーサロンA	34	7		○	○		
西部第2 武蔵野赤十字)	<p>(平成30年度分) <b>境南町地域ケア会議</b> 「いきいき健康生活づくり実行委員の取組とこれから」</p> <p>一昨年度の地域ケア会議で「いきいき健康づくり実行委員会」が発足し、さらに音楽活動を中心に行う「KYONAN奏でる会」が自主活動グループとして誕生した。1年間の活動報告を行い、今後の活動の発展について考える。</p>	令和元年 6月18日(火)  ケアコート武蔵野	27	6		○			